

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Cesarean section and parenting stress: results from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

帝王切開と育児ストレスの関係:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: European Psychiatry

年: 2023 DOI: 10.1192/j.eurpsy.2023.5

筆頭著者名: 松村 健太

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

帝王切開は、母子双方に長期的な健康リスクをもたらすと考えられている。しかし、今のところ、帝王切開と育児ストレスとの関連については明らかではない。そこで本研究では、大規模研究であるエコチル調査において、この関連を検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加している 65,235 名の母親を対象とした。アウトカムは、日本語 19 項目版・育児ストレス・ショートフォーム(J-PSI-SF)の下位尺度得点(子どもに起因するストレス、親自身に起因するストレス、配偶者に起因するストレス)およびこれらの合計得点とした。ばく露は、分娩様式(帝王切開、経産分娩)、評価時期(産後 1.5、2.5、3.5 年)、および分娩様式と評価時期の交互作用とした。

結果:

多変量回帰分析により、年齢、社会経済要因、精神疾患既往歴、妊娠合併症、居住地域など 17 変数で調整した調整 β 係数と標準誤差(SEM)を算出した。その結果、J-PSI-SF の合計得点は、経産分娩群よりも帝王切開群で高かった(調整後 $\beta = 0.24$ 、 $SEM = 0.09$)。この上昇は主に「子どもに起因するストレス」得点が高いこと(調整後 $\beta = 0.18$ 、 $SEM = 0.05$)によるものであり、親自身や配偶者に起因するストレス得点が高いことによるものではなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果より、帝王切開は育児ストレスの増大と関連しており、特に、子どもに起因するストレスの増大との関連が高いことが分かった。増大の程度はわずかであったものの、帝王切開の場合、母子双方の精神健康に注意を払うことが重要と考えられた。本研究の限界としては、観察研究であるため因果関係を扱っていないこと、帝王切開になった理由や状況を(予定なのか、緊急なのか等)聞いていなかったこと、育児ストレスを自己評価式の質問票で尋ねていることなどである。

結論:

帝王切開は母親の育児ストレス増大、特に、子どもに起因するストレスの増大と関連していることが明らかとなった。増大の程度はわずかであったが、帝王切開の場合、母子双方の精神健康に注意を払うことが重要と考えられた。